

日銀が4月から実施した異次元43兆円と3月末から23兆円減つ

金融緩和。最初の3カ月の資金のた。

動きが明らかになってきた。銀行融資の伸びは鈍いままだ。

安倍晋三政権が銀行に期待したのは国債保有に代わる融資増だつた。しかし銀行貸出残高は6月末に434兆円と、3月末比2兆円減を購入。6月末の国債保有額はに434兆円と、3月末比2兆円減った。毎年4～6月は年度末越えた。購入したのは主に銀行から。銀行の保有国債は6月末に1減る傾向にある。異次元緩和にそ

景気指標

異次元緩和と銀行融資

は前年同期比では2・9%増えてしの魅力は薄れている。

いる。これは異次元緩和前のアベノミクスへの期待が大きい。ただ

は、日銀に開いている当座預金の背景には日銀による当座預金

(必要額超過分)への付利がある。融資増への強い意欲は湧かない。

うした傾向を覆す力はなかつた。銀行の貸出約定平均金利(新規分)積み上げだ。日銀当座預金残高は6月末に76兆円と、3月末から24

リーマン危機後に円滑な資金供給付利をやめ、銀行に無理な融資増

てているという。6月末時点の残高を更新した。銀行にとつて貸し出兆円増えた。銀行の国債売却額に見合う額だ。もともと日銀は異次のまま続いている。金利は年0・1%で、付利水準を半分にするなどの

元緩和で保有国債増加額より当座預金の増加額が上回ると予測して

おり、銀行が国債売却資金を当座預金に積むのは既定路線だ。

銀行への補助金に当たるとの批判もそのままの異次元緩和では効果は限ら

根強い。

れる恐れがある。

(編集委員 太田康夫)